

みんなの毎日がサクランボの「剪定」！ 誇りを胸に、未来へ枝葉を伸ばしていこう



フルーツ王国の未来に向けて

さくらんぼメモリアルフェスタ

山形県で果樹栽培が始まって150周年の節目を迎えたことを祝う「さくらんぼメモリアルフェスタ」が6月6、7の両日、山形市の文翔館で開催されました。6日に開かれた記念式典では関係者が、これからもおいしいフルーツを全国に届けるとともに、関連産業の発展を目指すことを誓いました。



吉村美栄子知事が「未来に向けてしっかり課題に向き合い、県民と共に生産振興に取り組む」とスピーチしました



将来は果樹栽培を目指している東北農林専門職大学2年の石沢勇馬さん、奥山歩美さんが「今後もおいしいフルーツを作っていくよう努力します」と抱負を語りました



山形聖マリアこども園の園児たちが「さくらんぼ、だ〜い好き！」と唱和しました



屋外で6、7の両日行われた「流しさくらんぼ」は親子連れなどに人気を集めました。上手につまめたかな？



アンバサダー キャイヘン ウド 鈴木 さん

プロフィール (うど・すずき) 1970年1月19日生まれ、山形県出身。91年に天野ひろゆきと「キャイヘン」を結成。バラエティを中心にドラマでも活躍中。レギュラー番組はイッツコムチャンネル「ウド様おねがい!」、ABEMA「ななにー地下 ABEMA」。キャイヘンのYouTubeチャンネル「キャイヘンのティアチャンネル」も配信。

アンバサダー就任は、どのようなお気持ちで受け止められましたか？
お話を頂いた時、自分にはもったいないような大役だと感じました。山形で生まれ、高校生までを過ごしながら、古里に何も恩返しができいないという気持ちはずっとありましたので…。ですから、このような素晴らしい機会を頂いたことを、本当にありがたいと思っています。

「帰りたい古里があるという幸せ」
—ウドさんにとって、古里「山形」はどのような存在でしょうか？
お笑いの世界を目指して上京し、ただ無我夢中でやってきました。ですが、ある時から、ふと山形を思い浮かべることが多くなりまして。旅先で山を見れば古里の山を、田んぼを見れば実家の田んぼを思い出すんです。

その思いは、年を重ねるごとに、だんだんと濃くなっているように感じます。
上京してからも、山形の企業で働かせてもらったり、山形の方々にはたくさん支えていただき、また「帰りたい」と思うことも数えきれないほどありました。そう思える古里があるのは、とても幸せなことだと思います。そしてその存在が、東京に踏みとどまり、頑張りを続ける原動力になっています。山形、東北、日本、世界。どこも全て宇宙の中の一つの点のようなもの。そこにかかげえのない場所がある幸せを感じます。



冬のサクランボ畑で、剪定作業を見学、体験したウド鈴木さん。子どもたちは剪定枝を集めるお手伝いをしてくれました

生産者の覚悟と日々の努力に感銘
—冬のサクランボ畑でのワークショップはいかがでしたか？
冬はサクランボ畑を訪れたのは、今回が初めてでした。初夏にいい実をつけるために、冬の間に生産者の方々がこれほど手を掛けている姿を目の当たりにして、「待っているだけではいけないんだ」と、深く感じ入りました。

生きていると決めた方々の覚悟と、働くことを惜しまないその姿に、ただただ感銘を受けました。
そして、剪定されることで木々もまた元気になれることを、心待ちにしているようにも思っています。

生きていると決めた方々の覚悟と、働くことを惜しまないその姿に、ただただ感銘を受けました。
そして、剪定されることで木々もまた元気になれることを、心待ちにしているようにも思っています。

生きていると決めた方々の覚悟と、働くことを惜しまないその姿に、ただただ感銘を受けました。
そして、剪定されることで木々もまた元気になれることを、心待ちにしているようにも思っています。

です。「人間よ、来たな、待つていたぞ」なんて、木が語りかけてくるような…。人間と自然が、静かに対話しているような、そんな厳かで、温かい光景でした。
—未来を担う山形の子どもたちへ、メッセージをお願いします。
ワークショップに参加した子どもたちが、剪定のお手伝いも紙すきも、みんな真剣なまなざしで、一生懸命に取り組む姿が本当に素晴らしかったです。

EXPLO

やまがたフルーツ

YAMAGATA FRUIT EXPO

見て、食べて、学んで、楽しむ

フルーツの魅力満載！
大人から子どもまで楽しめるフルーツEXPO

日時

2025. 8/9 SAT 10:00-17:00

2025. 8/10 SUN 10:00-16:00

前夜祭

8/8 FRI 15:30-19:30

やまざん県民ホール イベント広場

場所

山形国際交流プラザ

山形ビッグウイング

入場

無料

やまがたフルーツ150周年

2025(令和7)年は山形県でサクランボや西洋ナシなどの栽培が始まってから150年の記念すべき節目の年「やまがたフルーツ150周年」です。やまがたフルーツ150周年に、山形県全体で県産フルーツを盛り上げていくため、山形県さくらんぼ&フルーツPR協議会を中心に統一的なプロモーションを展開しています。



企画・制作／山形新聞社広告局 後援／山形県・山形県教育委員会
■プロジェクトに関するお問い合わせ
山形新聞社広告局「山形愛」事務局 〒990-8550 山形市旅籠町2-5-12 TEL023-664-0295

SPECIAL SUPPORTER

UNNO HOUSE
株式会社 ウンノハウス

株式会社 三省堂印刷

株式会社 進和ラベル印刷

ダイバーシティメディア
DiversityMedia

デンロク
DENROKU

TRYVENT

日本製紙株式会社

日本生命
NISSAY

千歳の船橋からふさとを応援しています。
東船橋ふどうさん

藤庄印刷株式会社
「が真ん中にある」

FUJIFILM 富士フイルム BI 山形(株)

放送大学
山形学習センター

山形県民共済グループ
山形県民共済

山新建装株式会社

〈順不同〉

挑戦が、
やまがたを
強くする。

山形銀行

幸せが実る明日に、本気。

荘内銀行

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

「私たちの想い」
本業支援を通して
地域の「中小企業」と
「そこに働いている
従業員の皆さま」から
喜んでいただき
地域と共に生きること

活き3

じもと HOLDINGS きらやか銀行

配電盤、動力盤、分電盤メーカー
株式会社 ワイム